

2019年度 第1四半期 決算説明資料

株式会社 神戸製鋼所

2019年8月2日

1. 連結業績概要

2. セグメント別 売上高・経常損益

参考情報

本資料の予想に係る部分は、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

2019年度第1四半期決算（2019年4月1日～6月30日）

(億円)

	18年度 第1四半期 ①	19年度 第1四半期 ②	前年同期比 ②-①
売上高	4,783	4,644	△138
営業損益	138	27	△110
経常損益	127	△ 5	△132
特別損益	※1 39	-	△39
親会社株主に帰属 する四半期純損益	126	△ 11	△138

※1 子会社化関連損益 39億円
(神鋼鋼線工業子会社化)

2019年度業績見通し

(億円)

	18年度 ①	19年度前回 (5/15) 公表		19年度今回見通し		前回比		前年比
		上期②	年度③	上期④	年度⑤	上期④-②	年度⑤-③	年度⑤-①
売上高	19,718	10,100	20,700	9,800	20,000	△300	△700	+281
営業損益	482	50	450	0	250	△50	△200	△232
経常損益	346	0	300	△ 100	100	△100	△200	△246
特別損益	143	-	-	-	-	-	-	△143
親会社株主に帰属 する当期純損益	359	0	250	0	100	-	△150	△259

<為替レート>

	18年度 第1四半期	18年度	19年度 第1四半期	19年度 第2四半期以降
USドル (円/\$)	109	111	110	110
中国元 (円/元)	17.1	16.5	16.1	16.0
ユーロ (円/€)	130	128	123	120

- 配当につきましては、継続的かつ安定的に実施していくことを基本としつつ、財政状態、業績の動向、先行きの資金需要等を総合的に考慮して決定することとしております。
- これに基づき、当期の中間配当につきましては、今回の業績見通しを踏まえ、誠に遺憾ながら見送る方針を決議いたしました。なお、期末配当につきましては、予想額を未定としております。

<配当実績>

	16年度			17年度			18年度			19年度(予想)		
	中間	期末		中間	期末		中間	期末		中間	期末	
配当金額 (円/株)	-	-	-	-	30	30	10	10	20	-	未定	未定

※2016年10月1日を効力発生日として、10株を1株に併合する株式併合を実施。

2019年度第1四半期決算（セグメント別）

(億円)

		18年度 第1四半期 ①	19年度 第1四半期 ②	前年同期比 ②-①
鉄鋼	売上高	1,791	1,812	+20
	経常損益	8	△15	△23
	(内 在庫評価影響)	(20)	(10)	(△10)
溶接	売上高	197	211	+14
	経常損益	5	8	+2
アルミ・銅	売上高	931	882	△49
	経常損益	24	△31	△56
	(内 在庫評価影響)	(15)	(△10)	(△25)
機械	売上高	442	399	△43
	経常損益	10	8	△1
エンジニアリング	売上高	250	284	+34
	経常損益	4	8	+3
建設機械	売上高	1,013	957	△56
	経常損益	75	40	△35
電力	売上高	140	152	+12
	経常損益	△0	△16	△15
その他	売上高	145	57	△87
	経常損益	6	△4	△10
調整額	売上高	△129	△112	+16
	経常損益	△6	△2	+3
合計	売上高	4,783	4,644	△138
	経常損益	127	△5	△132

2019年度第1四半期決算（セグメント別）

鉄鋼

- 鋼材の販売数量は、国内の自動車向けを中心に需要が堅調に推移したことから前年同期並みとなった。
- 鋼材の販売価格は、主原料価格上昇の影響などを踏まえて価格改善に努めたことなどから、前年同期を上回った。
- 経常損益については、生産コストの改善を進めたものの、海外の自動車向けの需要減に伴う製品構成の悪化や、在庫評価影響(益)の縮小などにより、損失となった。

	(億円)		
	18年度 第1四半期 ①	19年度 第1四半期 ②	前年同期比 ②-①
売上高	1,791	1,812	+20
経常損益	8	△15	△23
(内 在庫評価影響)	(20)	(10)	(△10)

<生産・販売状況>

粗鋼生産量	172万t	172万t	△0万t
鋼材販売量	139万t	136万t	△3万t
鋼材輸出比率 (金額ベース)	25.9%	25.3 %	△0.6 %
鋼材販売単価(千円/t)	83.5	87.3	+3.8

<差異分析>

○18年度1Q 8億円 → 19年度1Q △15億円 △23億円

		(億円)	
増益要因		減益要因	
生産・出荷	+35	原料価格	△ 40
総コスト削減	+15	在庫評価影響※	△ 10
連結子会社・持分法	+10	為替影響	△ 10
		その他	△ 23
合計	+60	合計	△ 83

※在庫評価影響には総平均計算による影響及び低価法影響を含む。

2019年度第1四半期決算（セグメント別）

溶接

- 溶接材料の販売数量は、東南アジアで需要が低迷したものの、東アジアを中心とした造船向けの需要が回復傾向にあることや、中国におけるエネルギー向け需要の増加などから、前年同期を上回った。
- 経常損益については、販売数量の増加などにより増益となった。

(億円)

	18年度 第1四半期 ①	19年度 第1四半期 ②	前年同期比 ②-①
売上高	197	211	+14
経常損益	5	8	+2

アルミ・銅

- アルミ圧延品について飲料用缶材の需要は前年同期並みで推移したものの、半導体・IT関連向けの需要が減少したことなどから、販売数量は前年同期を下回った。
- 銅圧延品の販売数量は、半導体や自動車用端子向けの需要が減少したことなどから前年同期を下回った。
- 経常損益については、販売数量の減少やエネルギーコストの増加、在庫評価影響の悪化などにより、損失となった。

(億円)

	18年度 第1四半期 ①	19年度 第1四半期 ②	前年同期比 ②-①
売上高	931	882	△49
経常損益	24	△31	△56
(内 在庫評価影響)	(15)	(△10)	(△25)

<販売状況>

アルミ圧延品販売量	91千t	88千t	△2千t
銅板条販売量	15千t	13千t	△2千t
銅管販売量	22千t	23千t	+0千t

2019年度第1四半期決算（セグメント別）

機械

- 石油化学向け圧縮機を中心に大口案件の売上が減少したことなどから、減収減益となった。

(億円)

	18年度 第1四半期 ①	19年度 第1四半期 ②	前年同期比 ②-①
売上高	442	399	△43
経常損益	10	8	△1

エンジニアリング

- 新鉄源プラントや廃棄物処理案件などの進捗差などから、増収増益となった。

(億円)

	18年度 第1四半期 ①	19年度 第1四半期 ②	前年同期比 ②-①
売上高	250	284	+34
経常損益	4	8	+3

2019年度第1四半期決算（セグメント別）

建設機械

- 油圧ショベルの販売台数は、国内、中国においては需要が堅調に推移したことなどから前年同期を上回った一方、東南アジアでは需要が一時的に減退したことなどから前年同期を下回った。
- クローラクレーンの販売台数は、前期のクレーン倒壊事故の影響などにより前年同期を下回った。
- 売上高については、クローラクレーンの販売台数減や、ユーロや元に対して円高となった影響などから、減収となった。
- 経常損益については、東南アジアにおける販売台数の減少に加え、ユーロ安の影響による欧州向けの輸出の採算悪化、固定費増加などから、減益となった。

(億円)

	18年度 第1四半期 ①	19年度 第1四半期 ②	前年同期比 ②-①
売上高	1,013	957	△56
経常損益	75	40	△35

電力

- 売上高については、石炭価格の上昇に伴い、電力の販売単価が前年同期を上回ったことなどから、増収となった。
- 経常損益については、当第1四半期に法定点検を実施したことから、既設の神戸発電所の保全費が増加したことなどにより、悪化となった。

(億円)

	18年度 第1四半期 ①	19年度 第1四半期 ②	前年同期比 ②-①
売上高	140	152	+12
経常損益	△0	△16	△15

2019年度業績見通し (セグメント別)

(億円)

		18年度	19年度前回(5/15)公表		19年度今回見通し		前回比		前年比
			①	上期②	年度③	上期④	年度⑤	上期④-②	年度⑤-③
		鉄鋼	売上高	7,539	3,850	7,950	3,700	7,900	△150
	経常損益	47	△20	80	△60	0	△40	△80	△47
	(内 在庫評価影響)	(35)	(20)	(40)	(35)	(35)	(+15)	(△5)	(-)
溶接	売上高	839	430	870	420	870	△10	-	+30
	経常損益	36	15	40	20	40	+5	-	+3
アルミ・銅	売上高	3,590	1,850	3,800	1,750	3,500	△100	△300	△90
	経常損益	△15	△45	△40	△80	△120	△35	△80	△104
	(内 在庫評価影響)	(20)	(△15)	(△20)	(△20)	(△25)	(△5)	(△5)	(△45)
機械	売上高	1,714	840	1,850	810	1,730	△30	△120	+15
	経常損益	12	5	45	0	40	△5	△5	+27
エンジニアリング	売上高	1,517	670	1,500	660	1,510	△10	+10	△7
	経常損益	65	20	60	△5	60	△25	-	△5
建設機械	売上高	3,860	2,150	4,100	2,100	3,950	△50	△150	+89
	経常損益	255	90	160	80	115	△10	△45	△140
電力	売上高	761	370	840	350	790	△20	△50	+28
	経常損益	△3	△5	65	△5	65	-	-	+68
その他	売上高	420	150	350	140	350	△10	-	△70
	経常損益	23	0	35	0	35	-	-	+11
調整額	売上高	△525	△210	△560	△130	△600	+80	△40	△74
	経常損益	△75	△60	△145	△50	△135	+10	+10	△59
合計	売上高	19,718	10,100	20,700	9,800	20,000	△300	△700	+281
	経常損益	346	0	300	△100	100	△100	△200	△246

注) 「19年度前回(5/15)公表」の予想値について、前回公表時に未公表であった情報も本資料に記載しております。

2019年度業績見通し（セグメント別）

鉄鋼

- 鋼材の販売数量は、前回想定並みを見込むものの、海外の自動車向けの需要の減少に伴う製品構成の悪化の影響などから、前回想定に比べ減益を見込む。

(億円)

	18年度	19年度前回(5/15)公表		19年度今回見通し		前回比		前年比
	①	上期②	年度③	上期④	年度⑤	上期④-②	年度⑤-③	年度⑤-①
売上高	7,539	3,850	7,950	3,700	7,900	△150	△50	+360
経常損益	47	△20	80	△60	0	△40	△80	△47
(内 在庫評価影響)	(35)	(20)	(40)	(35)	(35)	(+15)	(△5)	(-)

<生産・販売状況>

	18年度	19年度前回	19年度今回見通し		前回比	前年比
	①	②	上期	年度③	年度③-②	年度③-①
粗鋼生産量	691万t	715万t程度	350万t程度	715万t程度	同程度	+24万t程度
鋼材販売量	562万t	585万t程度	285万t程度	585万t程度	同程度	+23万t程度
鋼材輸出比率(金額ベース)	24.9%		26%程度	25%程度		同程度

<差異分析>

○19年度前回見通し 80億円 → 19年度今回見通し 0億円 △80億円

(億円)

増益要因		減益要因	
原料価格	+10	生産・出荷	△90
その他	+15	在庫評価影響※	△5
		為替影響	△5
		連結子会社・持分法	△5
合計	+25	合計	△105

※在庫評価影響には総平均計算による影響及び低価法影響を含む。

2019年度業績見通し（セグメント別）

溶接

- 国内を中心に需要が堅調に推移すると見込まれることから、経常損益については前回想定を据え置く。

(億円)

	18年度	19年度前回(5/15)公表		19年度今回見通し		前回比		前年比
	①	上期②	年度③	上期④	年度⑤	上期④-②	年度⑤-③	年度⑤-①
売上高	839	430	870	420	870	△10	-	+30
経常損益	36	15	40	20	40	+5	-	+3

アルミ・銅

- アルミ圧延品については、米中貿易摩擦の影響などにより、販売数量の減少を想定。
- 銅圧延品の販売数量については、需要減少の影響で減少を想定。
- 経常損益については、販売数量の減少に加えて、関係会社における設備トラブルによる生産性悪化の影響などから、前回想定に比べ悪化を見込む。

(億円)

	18年度	19年度前回(5/15)公表		19年度今回見通し		前回比		前年比
	①	上期②	年度③	上期④	年度⑤	上期④-②	年度⑤-③	年度⑤-①
売上高	3,590	1,850	3,800	1,750	3,500	△100	△300	△90
経常損益	△15	△45	△40	△80	△120	△35	△80	△104
(内 在庫評価影響)	(20)	(△15)	(△20)	(△20)	(△25)	(△5)	(△5)	(△45)

<販売状況>

	18年度	19年度前回	19年度今回見通し		前回比	前年比
	①	②	上期	年度③	年度③-②	年度③-①
アルミ圧延品販売量	344千t	370千t程度	175千t程度	350千t程度	△20千t程度	+6千t程度
銅板条販売量	59千t	65千t程度	25千t程度	55千t程度	△10千t程度	△4千t程度
銅管販売量	85千t	85千t程度	45千t程度	85千t程度	同程度	同程度

2019年度業績見通し（セグメント別）

機械

- 経常損益については、案件構成差などにより前回想定に比べ若干の減益を見込む。

(億円)

	18年度	19年度前回(5/15)公表		19年度今回見通し		前回比		前年比
	①	上期②	年度③	上期④	年度⑤	上期④-②	年度⑤-③	年度⑤-①
売上高	1,714	840	1,850	810	1,730	△30	△120	+15
経常損益	12	5	45	0	40	△5	△5	+27

エンジニアリング

- 既受注案件の順調な進捗により、経常損益については前回想定を据え置く。

(億円)

	18年度	19年度前回(5/15)公表		19年度今回見通し		前回比		前年比
	①	上期②	年度③	上期④	年度⑤	上期④-②	年度⑤-③	年度⑤-①
売上高	1,517	670	1,500	660	1,510	△10	+10	△7
経常損益	65	20	60	△5	60	△25	-	△5

2019年度業績見通し（セグメント別）

建設機械

- 油圧ショベルについては、中国系メーカーとの競争が激しくなっていることから、販売数量の減少を見込む。
- クローラクレーンについても、東南アジアでの競争激化により、販売台数の減少を見込む。
- 経常損益については、販売台数の減少に加えて、為替レートが対ユーロで円高傾向にあり、欧州向け輸出の採算悪化が想定されることから、前回想定からの減益を見込む。

(億円)

	18年度	19年度前回(5/15)公表		19年度今回見通し		前回比		前年比
	①	上期②	年度③	上期④	年度⑤	上期④-②	年度⑤-③	年度⑤-①
売上高	3,860	2,150	4,100	2,100	3,950	△50	△150	+89
経常損益	255	90	160	80	115	△10	△45	△140

電力

- 石炭価格の下落により、前回想定からの減収を見込む。
- 経常損益については前回想定を据え置く。

(億円)

	18年度	19年度前回(5/15)公表		19年度今回見通し		前回比		前年比
	①	上期②	年度③	上期④	年度⑤	上期④-②	年度⑤-③	年度⑤-①
売上高	761	370	840	350	790	△20	△50	+28
経常損益	△3	△5	65	△5	65	-	-	+68

参考情報

【フリーキャッシュフローおよび設備投資の状況】

＜フリーキャッシュフロー＞

(億円)

	18年度	19年度	19年度	前回比	前年比
	①	前回公表②	今回見通し③	年度③-②	年度③-①
営業キャッシュフロー	723	600	350	△ 250	△ 373
投資キャッシュフロー	△ 109	△ 1,550	△ 1,400	+150	△ 1,290
プロジェクトファイナンス除く フリーキャッシュフロー	614	△ 950	△ 1,050	△ 100	△ 1,664
プロジェクトファイナンス含む フリーキャッシュフロー	385	△ 2,100	△ 2,200	△ 100	△ 2,585
プロジェクトファイナンス除く 現預金残高	1,926	700	700	-	△ 1,226

＜設備投資の状況＞

(億円)

	18年度	19年度	差異
	①	今回見通し②	②-①
設備投資計上額	1,334	3,000	+1,665
設備投資支払額	1,324	2,900	+1,575
減価償却費	1,025	1,100	+74

	2017年度 実績	2018年度 実績	2019年度 見通し
R O S ※1	3.8%	1.8%	0.5%
1株当たり当期純損益	174.43円	99.20円	27.60円
有利子負債 ※2	7,260億円	7,242億円	7,150億円
D / E レシオ ※3	0.98倍	0.98倍 ^{※4}	1倍程度
R O A ※5	3.1%	1.5%	0.4%
R O E ※6	8.9%	4.8%	1.3%

※1：売上高経常利益率

※2：有利子負債は、IPPプロジェクトファイナンスを含まない

※3：D/Eレシオ＝有利子負債（IPPプロジェクトファイナンス含まない）／自己資本

※4：2019年度分借入金の前倒し調達（921億円）含む
前倒し調達除く2018年度D/Eレシオ：0.85倍

※5：経常損益／総資産

※6：親会社株主に帰属する当期純損益／自己資本

	18年度 実績						
	1Q	2Q	上期			下期	年度
				3Q	4Q		
粗鋼生産量 (万t)	172	166	339	169	183	352	691
鋼材販売量 (万t)	139	132	271	149	143	291	562
鋼材販売単価 (千円/t)	83.5	87.0	85.2	87.4	86.4	86.9	86.1
鋼材輸出比率 (金額ベース)	25.9%	25.5%	25.7%	25.0%	23.1%	24.1%	24.9%

	19年度 見通し				
	1Q	2Q	上期	下期	年度
粗鋼生産量 (万t)	172	180程度	350程度	365程度	715程度
鋼材販売量 (万t)	136	150程度	285程度	300程度	585程度
鋼材販売単価 (千円/t)	87.3				
鋼材輸出比率 (金額ベース)	25.3%	26%程度	26%程度	24%程度	25%程度

<参考資料>【鉄鋼】差異分析

○19年度上期見通し △60億円 → 19年度下期見通し 60億円 +120億円

(億円)

増益要因		減益要因	
生産・出荷	+110	原料価格	△ 55
総コスト削減	+20	在庫評価影響※	△ 35
為替影響	+5	連結子会社・持分法	△ 15
その他	+90		
合計	+225	合計	△ 105

※在庫評価影響には総平均計算による影響及び低価法影響を含む。

○18年度 47億円 → 19年度見通し 0億円 △47億円

(億円)

増益要因		減益要因	
生産・出荷	+255	原料価格	△ 245
総コスト削減	+55	為替影響	△ 5
		連結子会社・持分法	△ 35
		その他	△ 72
合計	+310	合計	△ 357